

# りんごだより

草笛学園 2024年 7月号



梅雨に入ってじめじめした日が続いていますが、今日から7月に入りましたね！雨が嫌な人もいるとは思いますが、雨の日は傘をさしたり、長靴を履いたり、子どもたちにとっていつもと違う雰囲気を感じられます。また、傘に当たる雨粒の音や長靴で入る水溜りも子どもたちにとってはアスレチックになります！色々な感覚を五感で感じ雨の日も楽しく過ごしてくださいね！



## 「大きい自分になりたい」葛藤

### \* 「イヤ」の裏側にあるもの \*

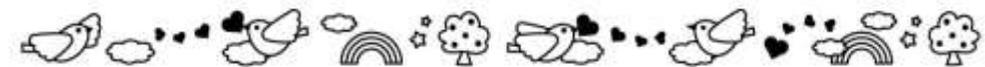
「大きい自分になりたい」願いをもっている子どもは、自分より大きい存在として、「ごはん食べなさい」などと指示してくるおとなの姿勢が受け入れられないのでしょうか。そして、願い通り大きい自分になれたらいいのですが、まだ自分ではできないことがいっぱいあり、おにいちゃん、おねえちゃんとしては、まだまだ認めてもらえない存在なのです。「イヤ」は、子どもが小さい自分から大きい自分に生まれかわろうと願っているのに、現実にはそうなれないで葛藤している心のあらわれといってもよいのではないのでしょうか。

この葛藤は、「大きい自分」を実感し、そして他者からもそれが認めてもらえることを積み重ねながら、しだいにのりこえていくものです。だからこそ、集団のなかで「おにいちゃん」「おねえちゃん」としての自分を実感できる場面がたいせつです。そう考えると保育園は、いながらにして「大きい自分」を実感し、発揮できるすばらしい舞台にみえてきます。

～中略～

そうはいつでも、「イヤ」にどう対応するかは、そのときそのときで考えなくてはなりません。「イヤ」に正面から立ち向かって、子どもは大人の願いを受け入れてはくれないでしょう。子どもは自分のことを「大きい」存在として認めてもらえるかどうか、おとなの心に疑心暗鬼なのです。いわば「イヤ」という電波を発して、おとながどう反応するかをみているのです。だから子どもの「イヤ」を頭から否定してはならないでしょう。しかし、「イヤ」を受け入れるだけでは、子どもの本当の願いを理解することにはなりません。子どもが自分で納得して、その「イヤ」をふところにしまいこめるだけの時間的な余裕や、子どもにとっての「きっかけ」が必要なのではないでしょうか。たとえば、「じゃあ、ごはん食べる前におかあさんに、じょうずな〇〇みせてくれるかな」と、「大きい自分」が発揮できる舞台を用意してみましょう。このことばは、けっして子どもを誘導しようとするものではありません。子どもの大きくなりたい願いがわかり、それを尊重できるおとなの心を伝えるのです。「大きい自分」が表現できるときに、子どもは他者を受け入れる心の窓を、少し開いてくれるはずですよ。

参考文献：白石 正久 著「子どものねがい 子どものなやみ」



## 次回のりんご教室は…

りんご教室①（次回は8月6日）

→みずあそびをします。水着・タオル・水筒・サンダルを持って来てください。

りんご教室②（次回は9月17日）※8月の開催はありません

→しっぽとりをします。動きやすい服装でシューズ・水筒を持って来てください。

## 参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
  - ・参加費は無料です。（次回からおたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）制作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡いたします
  - ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
  - ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
  - ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
  - ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください
- ていただくとともに、学園への連絡をお願いします

